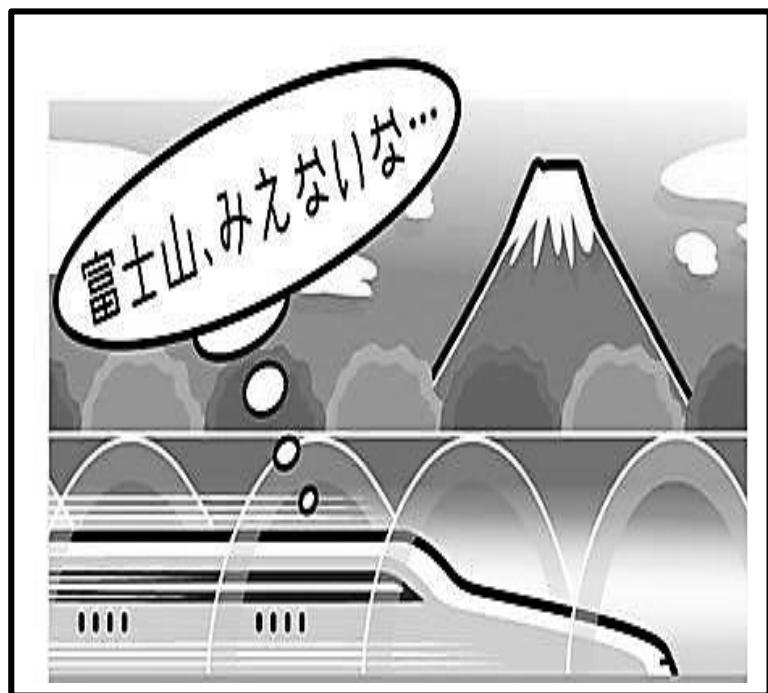


川崎市民の皆さん、リニアが必要だと思いますか？

10年以上の工事、トンネル残土の処理も未解決、

大深度地下を巨大なシールドマシンで掘っても、

地上に影響が無い～検証もせずに、そう言えますか



<リニアは川崎市民にメリットなし>

開業予定は2027年で、それまで工事は延々と続きます。東京・名古屋間の建設費は何と5兆5千億円以上、さらに膨らむ可能性があります。JR東海が困れば、国民負担のおそれ大です。

東京・品川～川崎～町田のリニアルートは大深度トンネルです。川崎では、中原区等々力～宮前区梶ヶ谷～同区犬蔵～麻生区東百合ヶ丘～同区片平の5か所の非常口を経由する16.3kmの大深度トンネルがつくられます。

工事による残土の量は407万 m^3 (東京ドーム3杯分以上)、それを運ぶ工事車両は100万台を超えると予想されます。

リニア新幹線の東京～名古屋間のルート286kmの86%はトンネルです。地上部分も雨風を防ぎ、またリニア車両の風切音を防止するためコンクリート製のフードで覆われ、外の景色は全く見えません。

車両内や乗降用通路はリニアの強力な磁界が生み出す電磁波を防ぐため、鉄製のシールド板で嚴重に保護されます。電磁波の人体への影響については疫学的な検証が不十分です。シールドが破損したら大変なことになるのではと心配です。

トンネル内で事故→その時あなたは無事避難できるでしょうか？

右はトンネル内でリニアが停車した場合の避難方法です。トンネル下部の保守用通路を使って最寄りの非常口まで歩いて避難するという想定。山岳部のトンネルでは、ガイドウェイ(側壁)とトンネル壁の間の隙間を歩いて斜坑から避難する事になります。都市部では非常口まで最長2.5kmを歩き、山岳部ではさらに山腹に開けられた非常口まで長い距離を歩かなければなりません。リニアは中央管制室で運行管理を行うため、運転士はいません。車掌さんが3人程度乗っているだけです。リニアのスピードは時速505km、走行中絶対事故は起きないと言えるのでしょうか。

